

白山ふるさと文学賞

第十四回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生5・6年 作文の部 最優秀賞

「3才ごろからの将来の夢」

松任小学校五年

柳橋 やなぎはし

潤 じゅん

「お母さん、あそこで潤のお薬用意しているの？」

初めて行った薬局で母に言った言葉です。薬局の中はガラスばりで、薬剤師さんが薬の用意をしているのが見えました。

私は三才ごろ、毎日のように耳鼻科に通っていて、週に一度は薬局で薬をもらっていました。薬をもらうまでの待ち時間の間、ずっと薬剤師さんの仕事を見ていたそうです。そのころからずっと、私のゆめは薬剤師になることです。

薬剤師になりたいと思ったきっかけは、薬局で薬剤師さんの仕事を見たこと、そして私の妹は生まれつき病気を抱っていて、毎日薬を何種類も飲んでるのを近くで見っていました。これも、薬剤師になりたい理由のひとつです。

薬剤師は、病院やドラッグストア、薬局などの様々な場所で働いています。医師が出す処方せんをもとに薬の量や飲み合わせを確にんして、間ちがいがないようにしたうえで薬を出してくれます。また、薬を飲みやすい状態にしたり、薬の効果や飲み方を説明したりします。

薬剤師の中でも、私は病院薬剤師になりたいです。そう思い始めたきっかけは、父に病院薬剤師が主人公のドラマがあることを教えてもらい、「アンサンング・シンデレラ」を見てからです。ドラマでは、医師が処方した薬を早く正確に用意していて、ビックリしました。病院には、入院する人や外来で来ている人が多くいるので、医師から薬を処方される人も多いと思います。薬剤師になって、処方された人に間ちがいなく薬を出して、薬でたくさんの人を助けることができればいいなと思います。

病院薬剤師になるためにその仕事についてくわしく調べてみることにしました。

入院かん者には、病棟に行つて直接、薬の説明や飲み方を指どうします。また、服用前後の確にんもします。

一番すごいと思ったのが、カンファレンスに参加することです。カ

ンファレンスとは、かん者の治りよう方法について、医師やかんご師たちと一しよに話し合う会議のことです。カンファレンスに参加するのは、薬剤師の中では病院薬剤師だけです。病院薬剤師は、かん者に薬を調剤するだけでなく、治りようにも関わるができます。病院薬剤師は、調剤薬局やドラッグストアで働く薬剤師よりも仕事が多くて大変で、やりがいのある仕事だと思いました。

次に、病院薬剤師になるためには、今から何をしたらいいのか考えてみました。

まず、勉強をがんばることです。学校のじゅ業では、先生の話を今よりももっと真けんに聞いて、じゅ業についていけるようにしようと思います。私は、薬剤師になるために行きたい学校があります。受験に受かるように、自分に合った勉強法を使ったり、自分でできるかぎりの工夫をしようと思います。

私は、作文や文章を書くのが苦手です。テストでも文章を書くことがあるので、スラスラと書けるようになります。そのために、毎日日記を書くことを続けたり、いろいろな本を読んで、文章の書き方や考え方、知しきを深めたいと思います。

そして勉強にも必要な『時間の使い方』を工夫することです。私は、計画を立てても、計画通りにできていないことが多いです。夏休みの宿題も計画通りに進まず、とても苦労しました。計画通りに物事を進めることができるようにするために、毎日宿題の時に時間や何をするかを決めて、その通りに取り組めるようにクセづけていこうと思います。

次に、病院薬剤師に必要な体力とコミュニケーション能力をつけることです。病院薬剤師は、各病棟を回ったり、薬を運んだりして一日に二万歩以上歩くこともあるそうです。体力がしっかりついていなければ、すぐにつかれてしまいます。父が毎日、ストレッチや全身運動をしているので、教えてもらいながら、一しよに続けています。

また、私はコミュニケーションをとるのは、苦手だと思っています。人見知りで、初めて会った人はもちろん、ひさしぶりにあった人にもきんちようしてしまいます。コミュニケーションをしつかりとれるように、近所の人へのあいさつや学校で自分の考えを発表することを心がけていこうと思います。

考えてみると、私にはすることやがんばらないといけないことがたくさんありました。これをしっかりとできるように、これから努力をしていきたいと思っています。

最後に、私は二年生の時から、アレルギーの薬を毎日飲んでいました。いつも行っている薬局の薬剤師さんたちは、みんなやさしく薬の説明をしてくれます。帰るときには、

「お大事に。」

と言ってくれます。薬剤師さんが言ってくれるお大事にというこの一言がまるで、『がんばって薬を飲んでね。』と言っているかのように聞こえます。おかげで飲みわすれることがなく、今までがんばって薬を飲むことができていたのかもしれないと思いました。私も、がん者さんたちが薬をがんばって飲もう！と思うことができるように、声かけをしたいです。

薬でたくさんの人を助けて、「お大事に。」とやさしく声かけができるような、病院薬剤師になります。

